

新型コロナウイルスの蔓延！ 今、「国民の生命と生活」を守る施策が求められている！

マスコミによれば、安倍首相は16日、新型コロナウイルス対策として、国民1人あたり10万円の現金を一律給付するため、令和2年度補正予算を組み替える方向で検討するよう麻生財務相に指示したことが報道されている。

ところで、安倍首相は当初、自民党の役員会で「休業に対して補償を行っている国は世界に例がなく、わが国の支援は世界で最も手厚い」と発言していたのである。これから見れば、今回の対応は幾分かは前進したことになる。しかし、「世界に例がない」は、明らかに事実誤認なのではないか？

こんなにある、世界の休業補償！

安倍首相が「世界に例がない」とした休業補償だが、英国はフリーランスを含む自営業者に平均所得の80%を支払い、フランスでは商店などの従業員に賃金の70%までを補償、ドイツでは従業員10人以下の事業所には3ヶ月で最大180万円、従業員5人以下の事業所には最大約107万円の給付などの手厚い補償が行われているのである。

コロナ拡大は「第三次世界大戦」

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴う混乱について、安倍首相が「第三次世界大戦」と表現していたことを、ジャーナリストの田原総一郎氏が明らかにしている。田原氏によれば、首相は「第三次世界大戦は核戦争になるであろうと考えていた。だがこのコロナウイルスの拡大こそ、第三次世界大戦であると認識している」と語ったそうである。戦争という言葉は物騒に響くが、安倍首相に限らず、世界の国々の指導者が「国難」であるとか「戦争だ」と、同様に表現している。やはりこれは戦争なのであろうといわざるを得ない。

従来之国と国との戦争ではなく、人類とコロナウイルスとの戦争なのである。コロナウイルスとの戦争に勝利するには、国民1人1人の忍耐と努力が必要とされる。そして、戦争に勝利するためには、並々ならぬ資金が、それ相応の補償として必要なのではないだろうか？

政府の「緊急事態宣言」以降、休業状態を余儀なくされている人々は途方に暮れているのではないだろうか？「財源はどうするのだ」という声もあるだろう。しかし、やはり「国民の生命と生活」こそが第一でなければならない。「国民の生命と生活」こそが補償されれば、財政はいずれ立て直すことが出来るのではないだろうか？